

肝がん予防の
ためには

少なくとも一生に一度は 肝炎ウイルス検査を受けましょう！

肝臓は「沈黙の臓器」といわれ、 自覚症状がないまま病気が進行してしまいます

2000年時点で、国内の約300万人がB型及びC型肝炎ウイルスに感染しているといわれています。

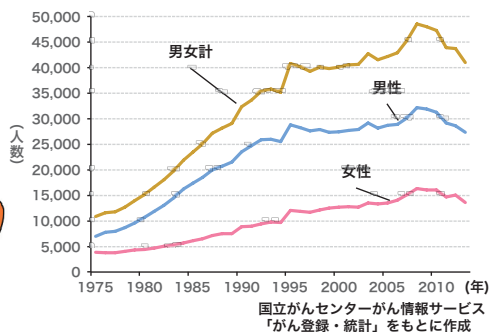
しかし、日本の約半数の人がまだ肝炎ウイルス検査を受けていません。

ウイルス感染を放置しておくと、肝硬変や肝がんを発症する恐れがあります。

ウイルスに感染しているかどうかは検査でしかわかりません。まだ検査を受けていない人は早めに肝炎ウイルス検査を受けましょう。



肝がんの患者数の推移



肝がんの原因のほとんどはB型・C型肝炎ウイルスの 持続感染です

日本人のがんによる死亡で5番目に多いのが肝がんです。毎年約3万人が肝がんによって亡くなっています。

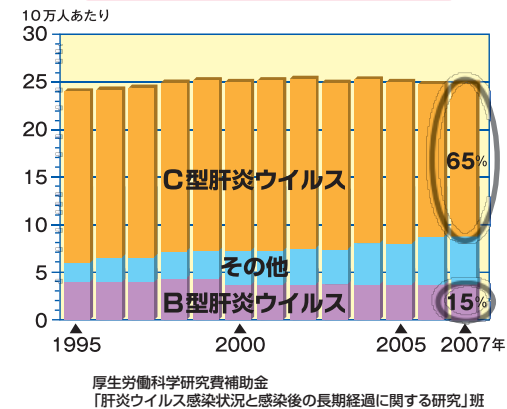
その原因の約80%はB型・C型肝炎ウイルスの持続感染です。

しかし、肝がんは原因がはっきりしているので、予防可能ながんといわれています。

検査していない人は
少なくとも一生に一度は
受けましょう



肝がん死亡の原因別にみた割合



B型肝炎は治療により肝硬変や肝がんへの進行を 抑えることができます

B型肝炎は…

- 出産時に母親から赤ちゃんに感染する「母子感染」、乳幼児期に父母などから子どもに感染する「乳幼児期の感染」がほとんどです。
- 持続感染者（キャリア）から慢性肝炎・肝硬変を発症する人は10～15%でほとんどの人はそのまま一生を過ごします。
- **症状がなくてもB型肝炎は突然肝がんを発症することがあるので**、定期的に検査を受けることが大切です。

治療

B型慢性肝炎の治療目標は、ウイルス増殖抑制による肝炎の沈静化です。これにより、肝炎関連合併症を阻止し、生命予後、QOLを改善することができます。抗ウイルス療法の有効率は**80%以上**です。

抗ウイルス療法

核酸アナログ製剤療法（内服薬）

- ・ 肝炎ウイルスの増殖を抑制する治療法
- ・ 35歳未満でも進行した慢性肝炎・肝硬変患者が対象
- ・ **投与を中止すると肝炎が再発するため、内服を続けるようにしましょう。**

治療すれば
肝がんを予防
できますよ



C型肝炎の治療効果は飛躍的に進歩しています

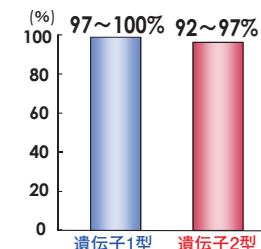
C型肝炎は…

- 感染している人のほとんどは、原因がわからない人が多く、過去の輸血なども原因のひとつです。
- B型肝炎ウイルスより感染力が弱く、性交渉や体液では感染することはほとんどありません。
- **60歳以上に感染率が高い**傾向がみられます。
- ゆっくりではあるものの徐々に肝臓の線維化が進み、長い時間をかけて肝硬変・肝がんへと進行します。

治療

C型慢性肝炎に対する治療の原則は抗ウイルス療法です。C型肝炎ではウイルスを排除することにより肝細胞がんの発生及び肝疾患関連死のリスクが低下します。

経口薬によるウイルス排除率



(C型肝炎治療ガイドライン第6版(2017年12月)より作成)